

# I. 調査要領

## 1. 調査時点及び調査対象期間

(1)調査時点 平成 20 年 10 月 1 日

(2)調査対象期間 平成 20 年 7 月～9 月期の実績および平成 20 年 10 月～12 月期の見通しについて調査した。

## 2. 調査対象

当所会員企業を対象に、商業+食品業部会、水産業部会、機械工業部会、建設業部会、観光・サービス業+諸業部会より各 30 社、計 150 社を抽出し郵送により調査した。

## 3. 回収状況

	対象企業数	回答企業数	回 答 率
商業+食品業部会	30 社	17 社	56.7%
水産業部会	30 社	19 社	63.3%
機械工業部会	30 社	16 社	53.3%
建設業部会	30 社	19 社	63.3%
観光・サービス業+諸業部会	30 社	17 社	56.7%
合 計	150 社	88 件	58.7%

注) 本調査結果の中で、「D・I」値とある記号は、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（好転・上昇）企業割合から減少（悪化・低下）企業割合を差し引いた値（景気動向指数）を示す。

## Ⅱ. 概 況

－業況は前期より悪化、次期もさらに悪化の見込み－

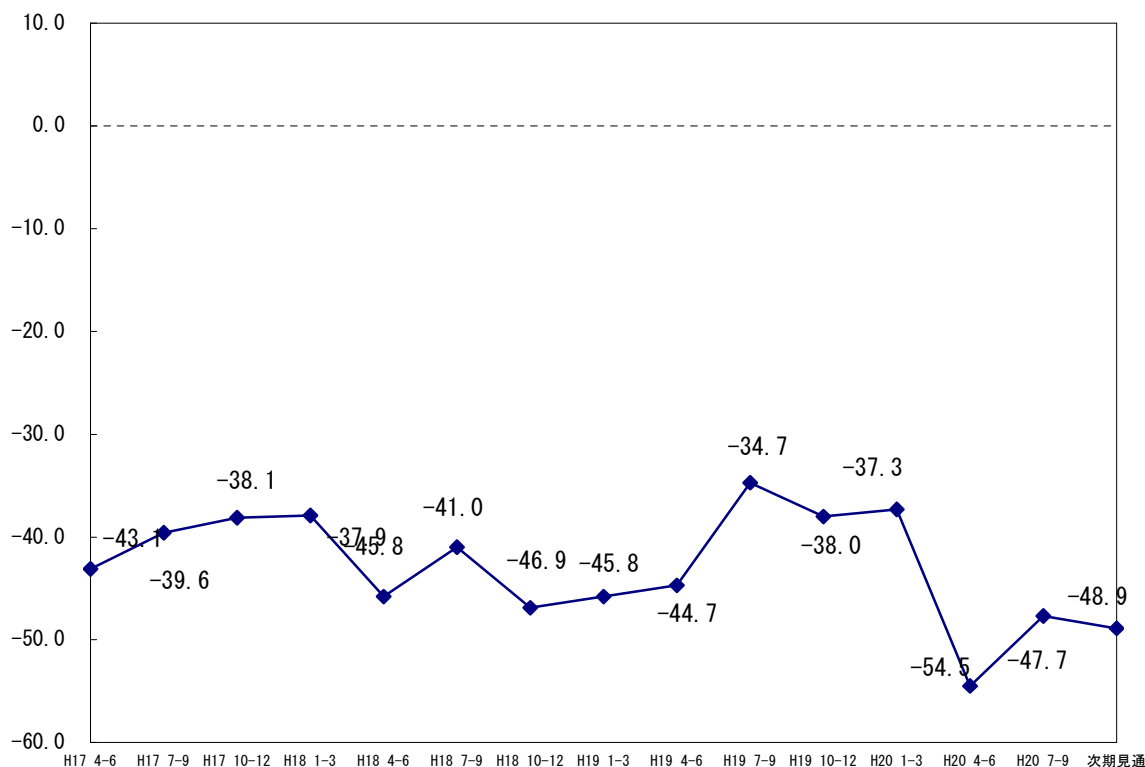
### 1. 全体の動き(業況)

四半期毎に実施している中小企業景況調査の**今期(平成20年7月～9月)の全業種平均DI値**(「好転」と答えた企業と「悪化」と答えた企業の割合の差)は、**前年同期比△47.7**と前回調査時の△53.8より**6.1ポイント改善**しました。低いながらも回復基調を推移し、今期業況は改善したという結果になっております。しかしながら、各業種の各業況値を鑑みますと、ほとんどの業種がマイナス水準であることに変わりなく、市内経済を取り巻く経営環境は依然厳しい状況が続いていると見受けられます。当所としても年末から来年3月まで非常に厳しい状況が続いていく傾向が強いと考えております。

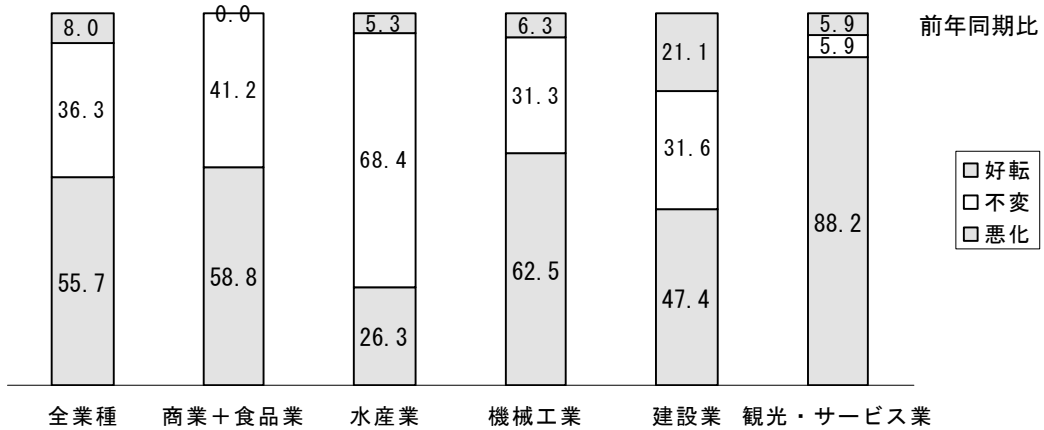
部会別で前年同期比ベースをみると、商業食品業[前期△47.1→今期△58.8]、水産業[前期△23.8→今期△21.1]、機械工業[前期△66.7→今期△56.3]、建設業[前期△50.0→今期△26.3]、観光サービス諸業[前期△78.3→今期△82.4]となりました。建設業だけが繁忙期ということもあり、仕事が若干上向きであった兆しが見られるものの、商業食品業は夏が暑くなかったこと等により売上が伸びず、業況は悪化しております。また水産業、機械工業は横ばいか若干改善傾向となっているほか、観光サービス諸業においては、今期もさらに厳しい数字が続いており、見通しもさえない状況となっています。

**来期(平成20年10月～12月)**については、今期と比べて**業況判断DIが1.2ポイント悪化**するとの見通しが寄せられ、特に全体的なDI悪化の影響を直接受ける観光サービス業諸業においては、これから繁忙期を迎える年末にむけて業況回復の期待を持ちたいところですが、市内観光サービス業諸業の経営実態状況を聞き取り調査してみても、10月11月の売り上げの激減による疲弊感および今後の来客に対する失望感が強いという意見が多く、経営内容も非常に苦しい状況になっています。

業況推移(全業種平均D・I)



### 今期の業況（前年同期比）



経営上の問題点としては、引き続き**石油製品の高騰による経費負担増**を訴える声が多く寄せられています。最近石油燃料価格がやっと低下してきていますが、これから石油製品の需要を増える冬期を迎えることから、経営に与える負担が懸念されます。また、人口の減少を不安視する回答がさらに増えてきており、それにとまなう売上の減少を心配している傾向が視えます。

### ■部会別の動向

**【商業・食品業部会】**〔業況判断DI値（前年同期比）△58.8（前期△47.1、来期見通し△64.7）〕

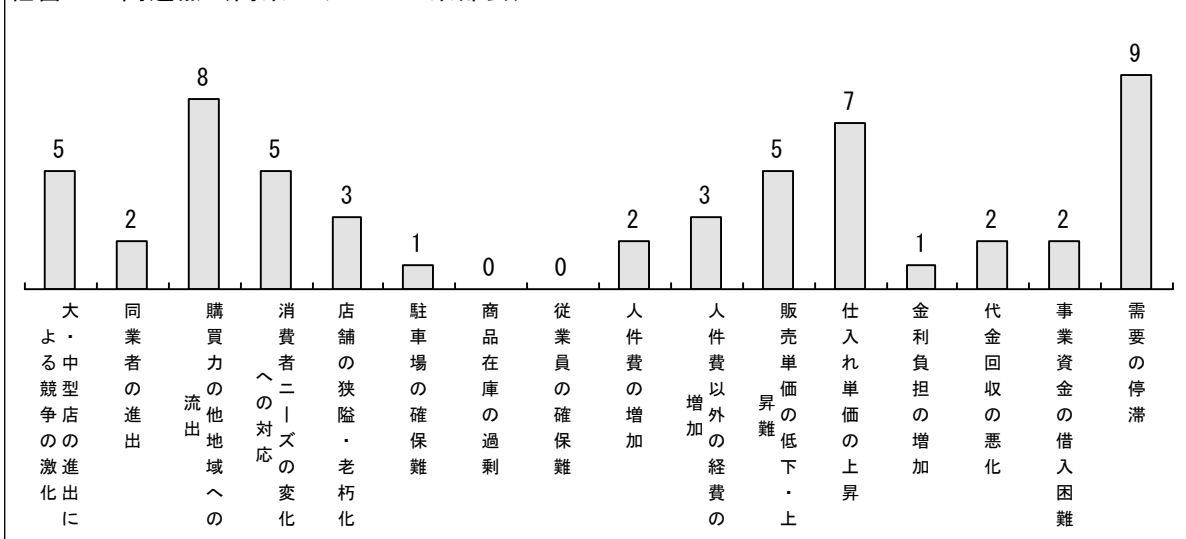
業況DI値（前年同期比）は、依然としてマイナス値が続く厳しい状況で推移しておりますが、前期よりも業況値が悪化しています。今年の夏（7～9月）は、気温もあまり上がらず消費の回復みられなかったと推測されます。次期の見通しについては、年末商戦にむけて回復を期待したいところですが、さらに悪化する見通しとなっております。

経営上の問題点としては「需要の停滞」「購買力の他地域への流出」「仕入れ単価の上昇」を訴える声が多い。

#### 《業界の問題点等》

- ・ 薬事法の改訂にとまなう異業種（コンビニ・量販店）の参入による客数減少（小売）
- ・ サプライム問題等、世界的に金融不安が広がり、需要の停滞となっている。（小売）
- ・ 業界の問題点と云うより、どの小売業界も国・道等の経済不況により本市においても消費者の需要は停滞するでしょう。景気動向調査も必要ですが、その結果に対する商工会議所としての対策もやるべきである。

#### 経営上の問題点（商業・サービス業部会）

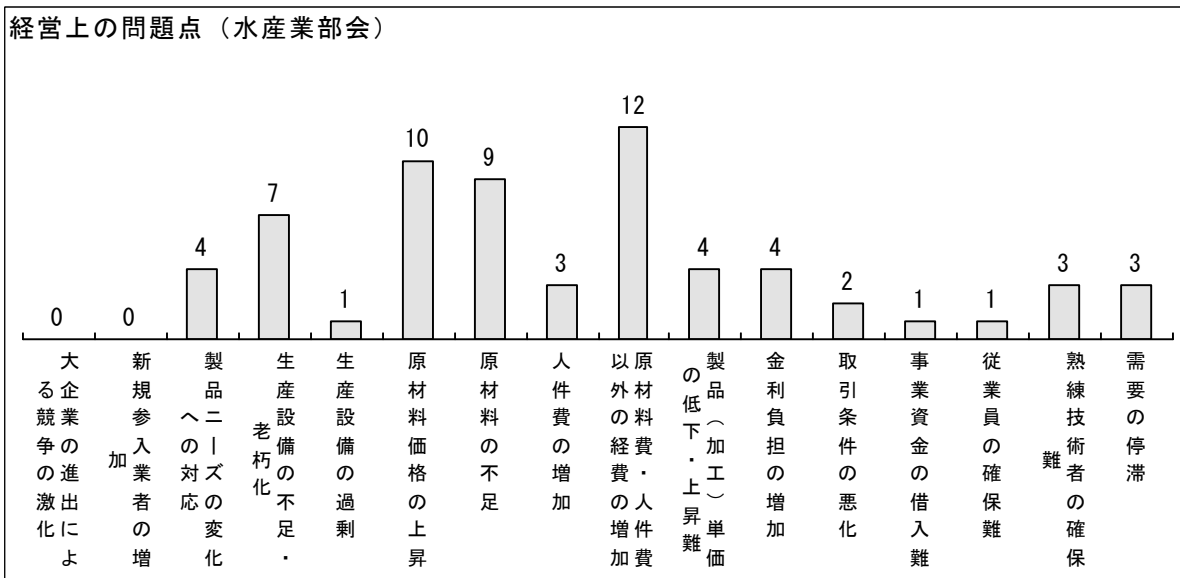


**【水産業部会】** [業況判断DI値（前年同期比）△21.1（前期△23.8、来期見通し△15.8）]

業況判断DI値（前年同期比）は若干改善していますが、今期の水産業界については、鮭マス  
の水揚げが少なく先行き不安だったが、取引単価が高かったこともあり、若干業況値は改善さ  
れた。これから冬を前にして最盛期をむかえる今後の回復が期待されており、来期の見通しに  
ついては、若干良くなる見通しとなっております。経営上の問題点としては、網など関連石油  
製品の値上げ、船の重油燃料・加工場ボイラーの重油燃料の値上がりが大きく響き、ホタテ・  
鮭など原魚不足による原材料価格の上昇も経営が苦しくなっている原因となっております。

**《業界の問題点等》**

- ・仕入先より、原材料・資材・石油全て15～30%の値上げの要請。3月よりほとんど実施され  
ていて、今期収益悪化は避けられない。（水産加工）
- ・水産加工業界はHACCP対応に迫られている。工場設備を考える時、投資金額の回収が大  
変で、農業、漁業者に近い思い切った国の支援が望まれる。（水産加工）



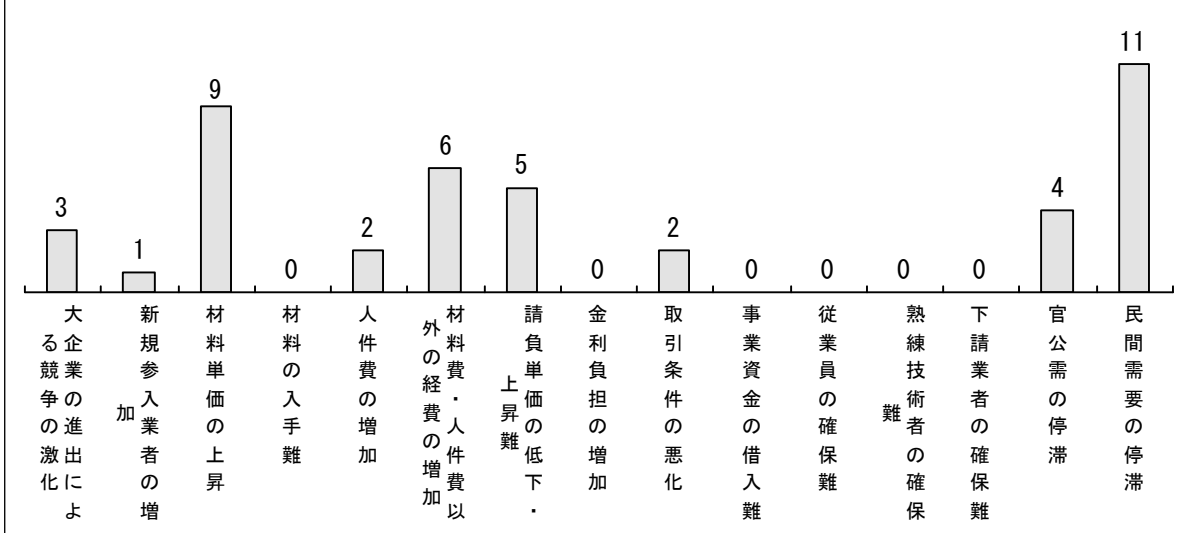
**【機械・工業部会】** [業況判断DI値（前年同期比）△56.3（前期△66.7、来期見通し△68.8）]

業況判断DI値（前年同期比）は、前期よりも若干改善されております。しかしながらマイナ  
ス水準は50%を割り込み、先行きの見通しについては非常に悪い数字がでております。経営  
上の問題点として、民間需要の低下や燃料費高騰にともなう仕入・材料単価の上昇を訴える声  
が多く寄せられている。

**《業界の問題点等》**

- ・公共事業の減少はもちろんの事、経済界の不況による民間需要の低下が目立ちます。これか  
ら先も当分のこの状態が続き、悪くなくても良い方に進むのは困難な様な気が致します。（頑  
張ります）（機械修理）

経営上の問題点（機械・工業部会）



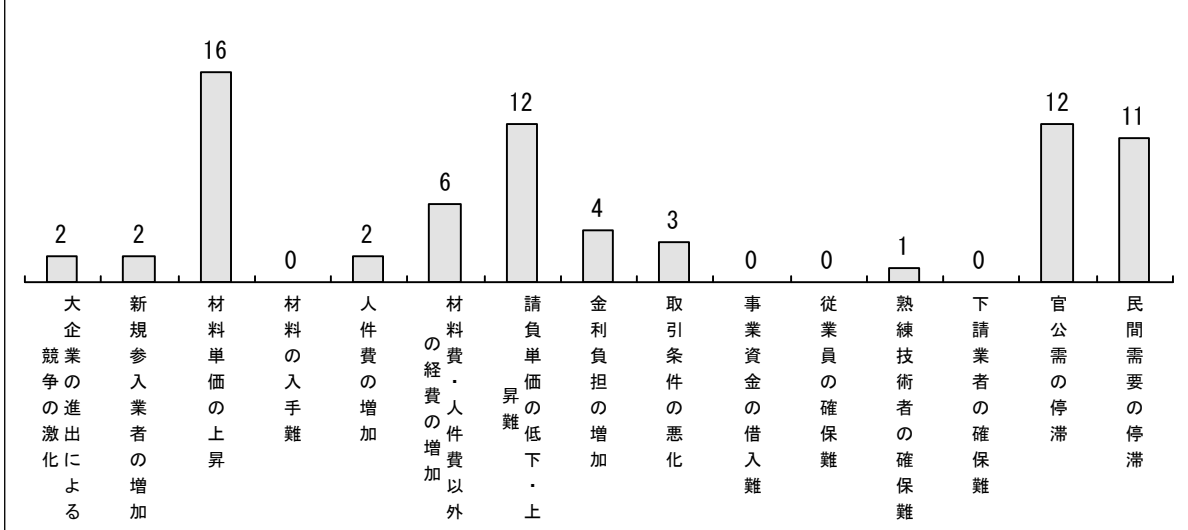
【建設業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）△26.3（前期△50.0、来期見通し△31.6）〕

業況判断DI値（前年同期比）は夏の繁忙期を迎え、少し改善した状況となっています。しかしながら来期への見通しは暗く、冬を前に厳しい状況は続いていきます。経営上の問題点としては、鉄骨や鉄筋、電線など金属単価の上昇にともなう「民間・官公需からの需要減」、「材料単価の上昇（鋼材・木材関連製品の価格上昇）」、「材料費・人件費以外の経費の増加（主に燃料等の高騰）」など経営収支を圧迫させる内容となっております。

《業界の問題点等》

- ・建設諸資材、燃料費の高騰（建設）
- ・請負単価が安い。見積もりした金額に対し実行予算が少ない（見積もりの50～60%程度）（建設土木）
- ・灯油の値上がりでオール電化が多くなってきたが、それに伴い温水器などの値上げが決定。見積もり済みで決定分は再度の交渉となる。材料の値上がりで採算が取れず、販売対策費の打ち切りとなる。（電気工事）

経営上の問題点（建設業部会）



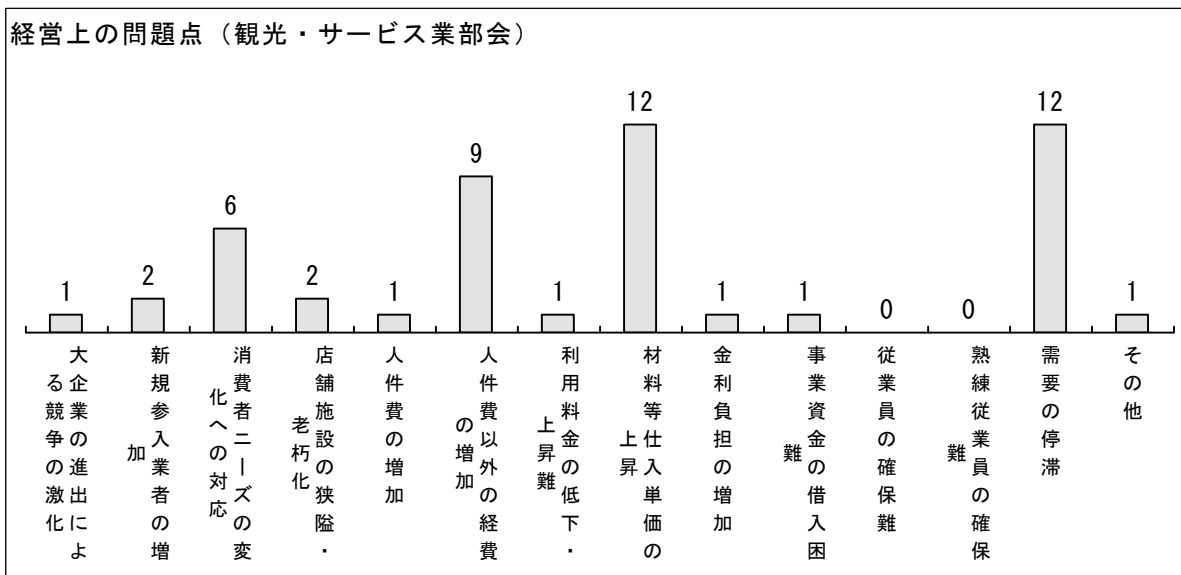
【観光・サービス業・諸業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）△82.4（前期△78.3、来期見通し△70.6）〕

業況判断DI値（前年同期比）は前回調査に続き、さらに過去最低の悪化水準に達しています。来期は依然マイナスとなり大きな改善は見通せませんが、年末年始の繁忙期に向けて若干でも数値が改善されることを期待しております。

経営上の問題点としては需要が停滞する中、「材料等仕入単価の上昇」、客足の減少からくる「需要の停滞」という声が多く寄せられているほか、燃料製品高騰に伴う「人件費以外の経費の増加」、「消費者ニーズの変化への対応」という声も寄せられています。

### 《業界の問題点等》

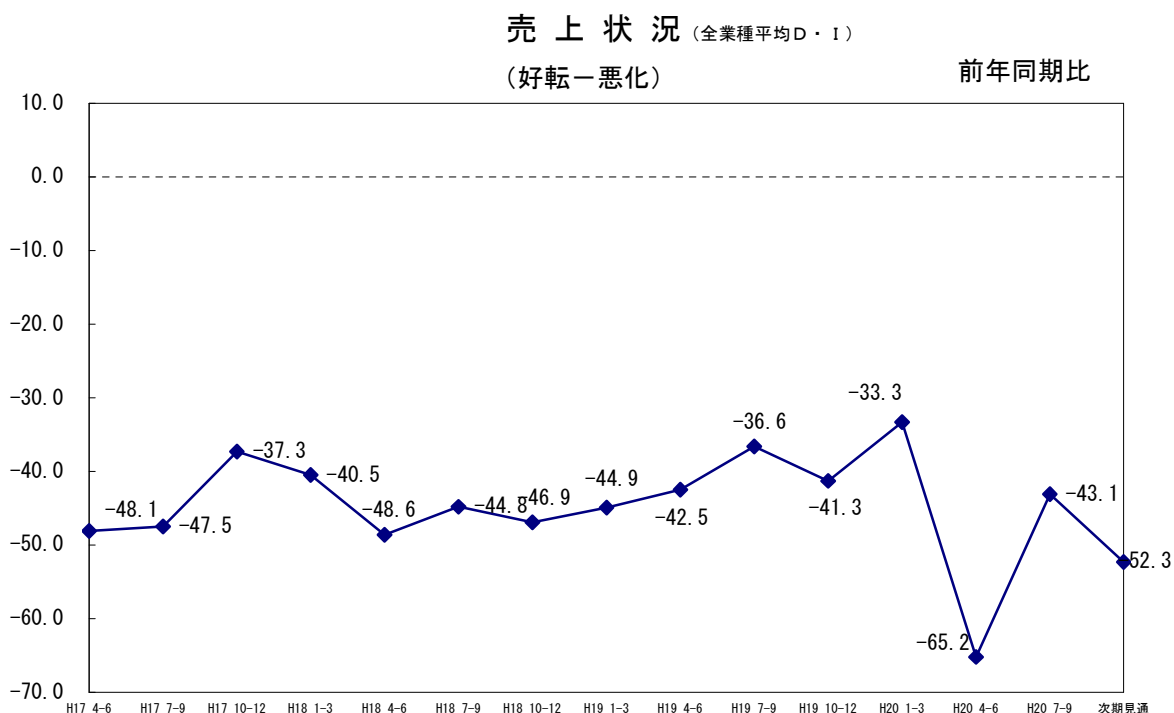
- ・「高齢化」…お客様と自分たちのこれが良い部分と大変な部分になっています。(理美容)
- ・全ての仕入単価が上昇しています。でも値上げできない状況です。(飲食)
- ・人口の減少、石油製品の値上がり、経費の増加、売上の減少。(クリーニング)
- ・我が業界の景気状況、良いことはありません。残念です。(理美容)
- ・打つ手なし。自助努力のみ。税金を払えないので、63才で国民年金をもらう事にした。(理美容)・人口減少(サービス)



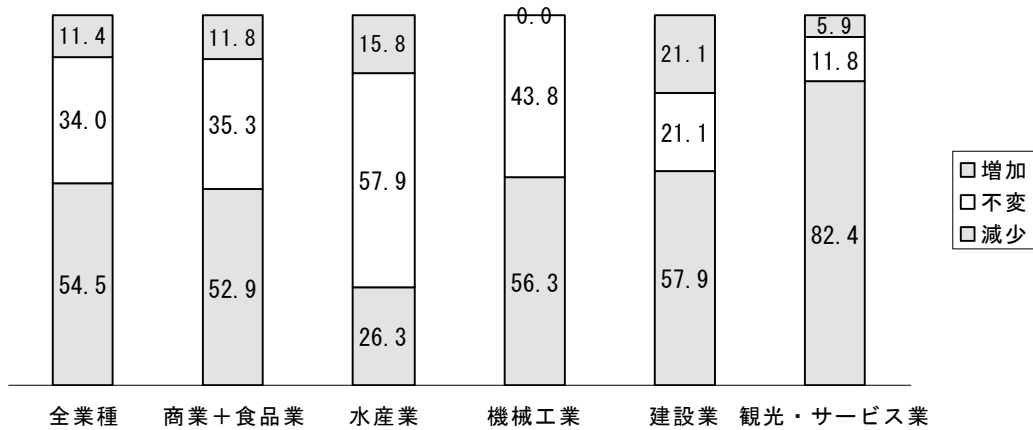
## 2. 今期の動向

### (1) 今期の売上高・生産高

【前年同期比】(平成19年7月～9月期の水準と比較した今期の売上高)



### 今期の売上高・生産高（前年同期比）



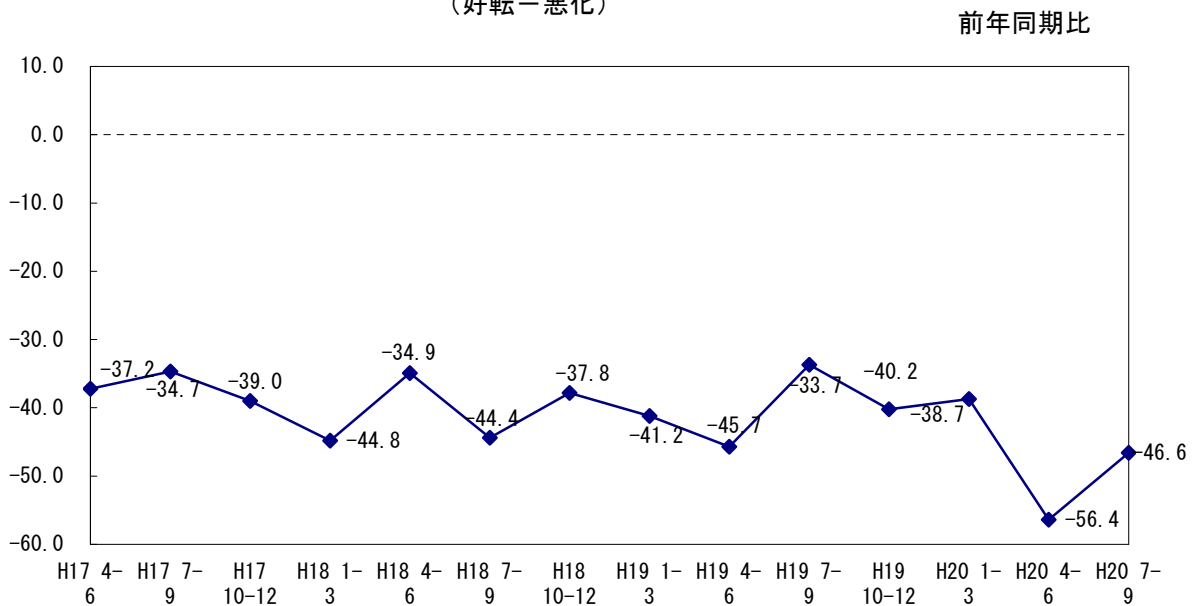
全業種平均でDI値 $\Delta 47.7$ 〔前回調査時(平成20年4~6月期 $\Delta 53.8$ )より6.1ポイント改善。〕

〔部会別DI値〕 商業・食品業〔前回 $\Delta 47.1 \rightarrow \Delta 58.8$ 〕、水産業〔前回 $\Delta 21.1 \rightarrow \Delta 21.1$ 〕  
 機械工業〔前回 $\Delta 38.9 \rightarrow \Delta 56.3$ 〕、建設業〔前回 $\Delta 33.3 \rightarrow \Delta 26.3$ 〕  
 観光・サービス業〔前回 $\Delta 55.0 \rightarrow \Delta 82.4$ 〕

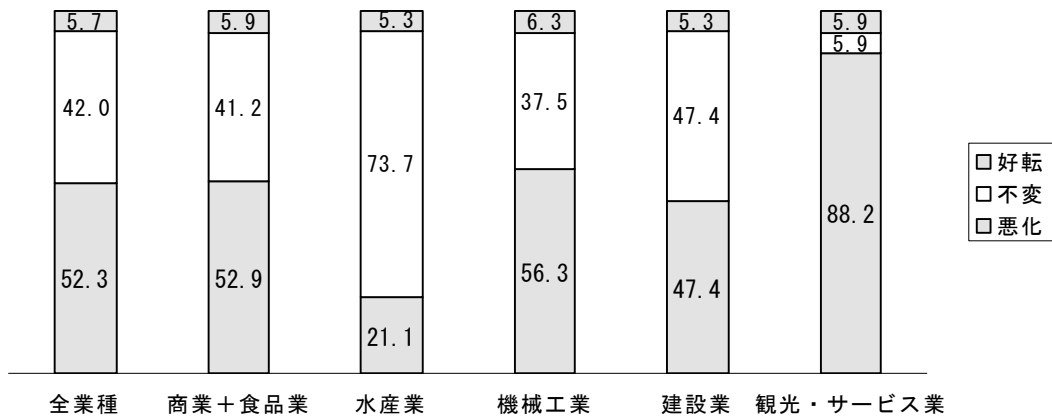
### (2) 今期の採算

【前年同期比】(平成19年7月~9月期の水準と比較した今期の採算水準)

#### 採算推移 (全業種平均D・I) (好転-悪化)



### 今期の採算（前年同期比）



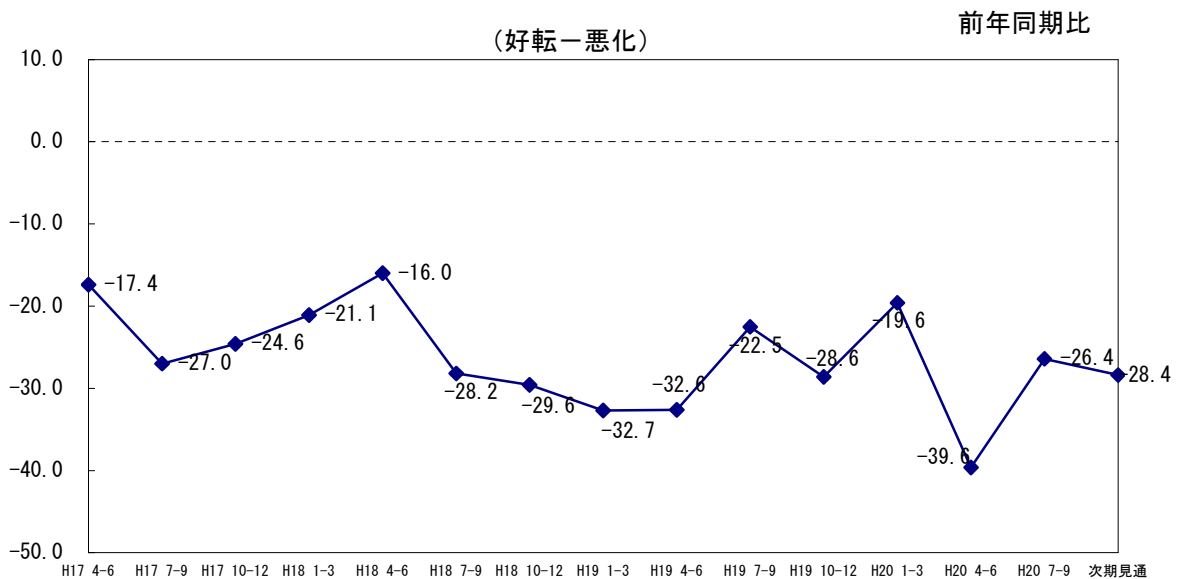
全業種平均でDI値△46.6〔前回調査時（平成20年4～6月期△55.7）より9.1ポイント改善〕

〔部会別DI値〕 商業・食品業〔前回△47.1→△47.1〕、水産業〔前回△33.3→△15.8〕  
 機械工業〔前回△57.1→△50.0〕、建設業〔前回△62.5→△42.1〕  
 観光・サービス業〔前回△73.9→△82.4〕

### (3) 今期の資金繰り

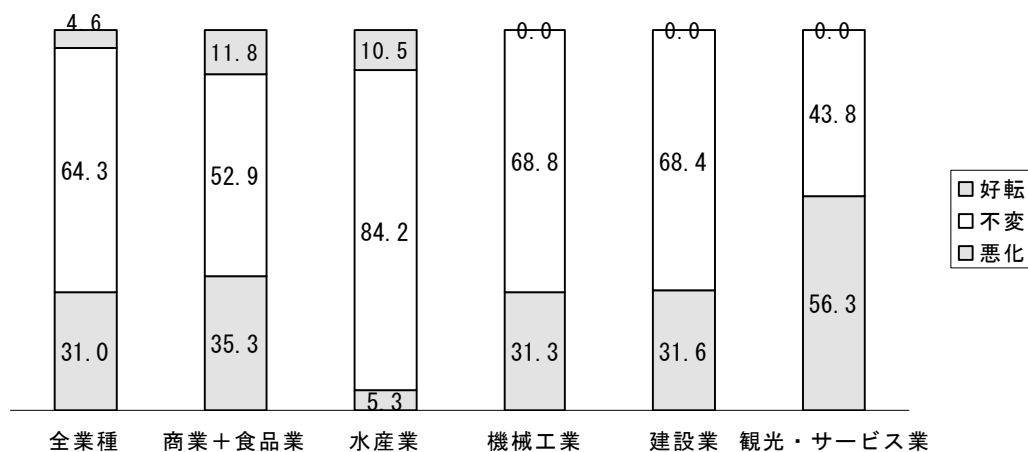
【前年同期比】（平成19年7月～9月期の水準と比較した今期の資金繰り）

#### 今期の資金繰り（全業種平均D・I）





### 今期の資金繰り（前年同期比）



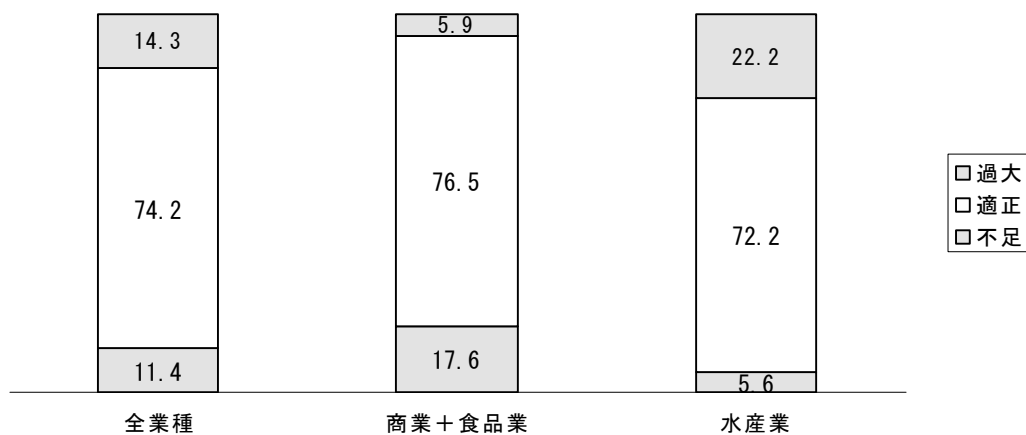
全業種平均でDI値 $\Delta 26.4$ 〔前回調査時（平成20年4～6月期 $\Delta 40.6$ ）より14.2ポイント改善〕

〔部会別DI値〕 商業・食品業〔前回 $\Delta 35.3 \rightarrow \Delta 23.5$ 〕、水産業〔前回 $\Delta 23.8 \rightarrow +5.3$ 〕  
 機械工業〔前回 $\Delta 47.6 \rightarrow \Delta 31.3$ 〕、建設業〔前回 $\Delta 37.5 \rightarrow \Delta 31.6$ 〕  
 観光・サービス業〔前回 $\Delta 56.5 \rightarrow \Delta 56.3$ 〕

### (4) 今期の在庫水準

【前年同期比】（平成19年7月～9月期の水準と比較した今期の在庫水準）

### 今期の在庫水準（前年同期比）

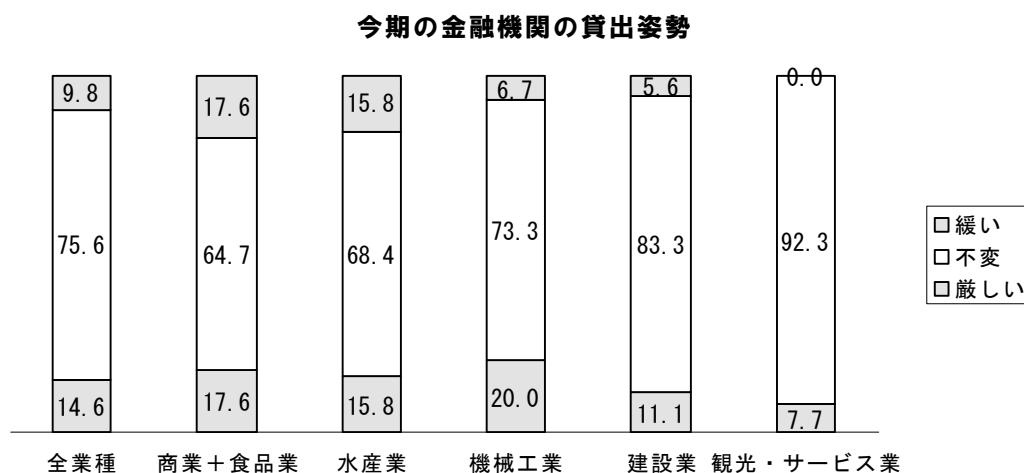


全業種平均でDI値 $+2.9$ 〔前回調査時（平成20年4～6月期 $+7.9$ ）より5.0ポイント在庫減少〕

〔部会別DI値〕 商業・食品業〔前回 $+17.6 \rightarrow \Delta 11.8$ 〕、水産業〔前回 $0.0 \rightarrow +16.7$ 〕

## (5) 今期の金融機関の貸出姿勢

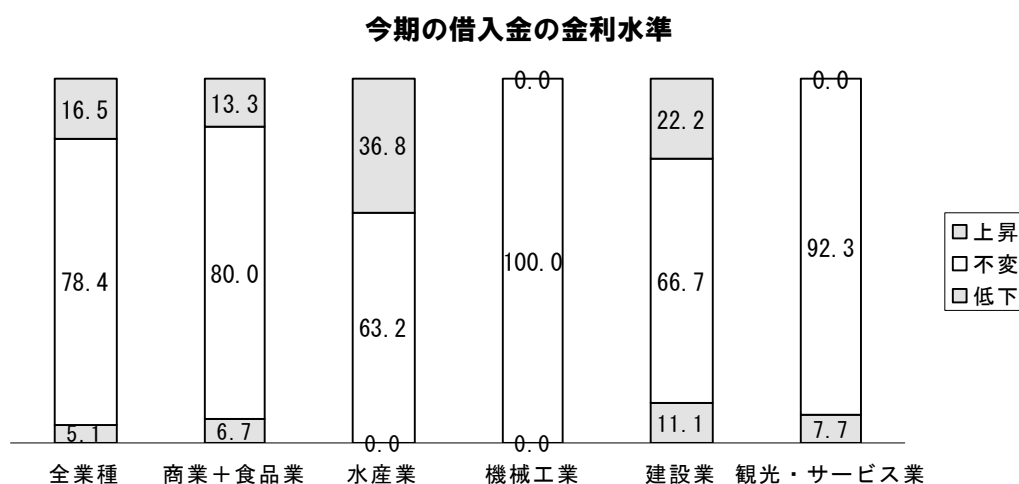
【前年同期比】（平成19年7月～9月期の水準と比較した今期の金融機関の貸出対応）



全業種平均で $\Delta 4.8$ ポイント。商業食品業 $0.0$ 水産業 $0.0$ 機械工業 $\Delta 13.3$ 建設業 $\Delta 5.6$ 観光サービス業諸業 $\Delta 7.7$ 。

## (6) 今期の借入金の金利水準

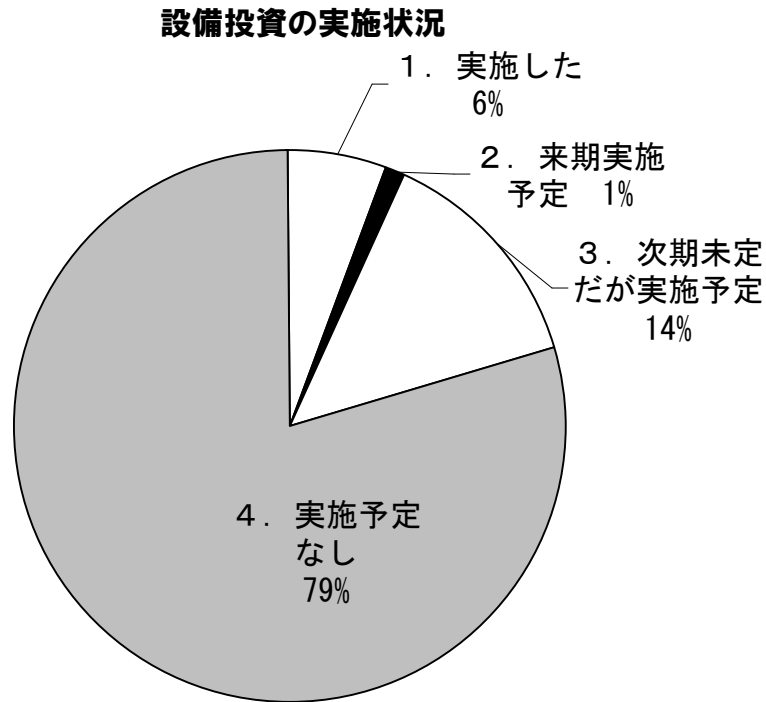
【前年同期比】（平成19年7月～9月期の水準と比較した今期の借入金の金利水準）



全業種平均で $+11.4$ 。商業食品業 $+6.7$ 水産業 $+36.8$ 機械工業 $0.0$ 建設業 $+11.1$ 観光サービス $\Delta 7.7$ 。（金利水準が上昇しているとの回答比率が多くプラスの数字となっています）

## (7) 設備投資の実施状況

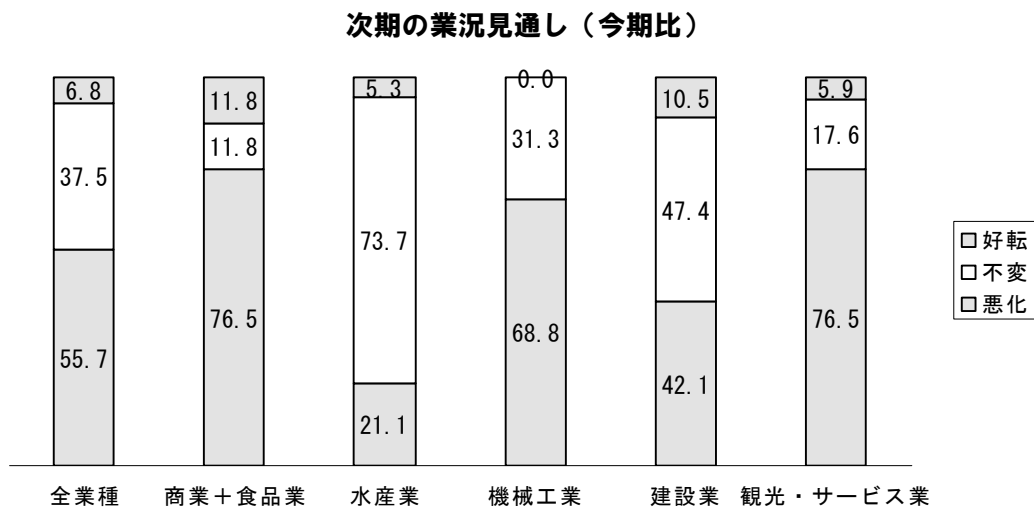
今期の店舗・社屋・工場等への設備投資実施状況について



## 3. 来期の見通し

### (1) 来期の業況

【今期比】（平成 20 年 7 月～9 月期の水準と比較した来期の業況見通し）

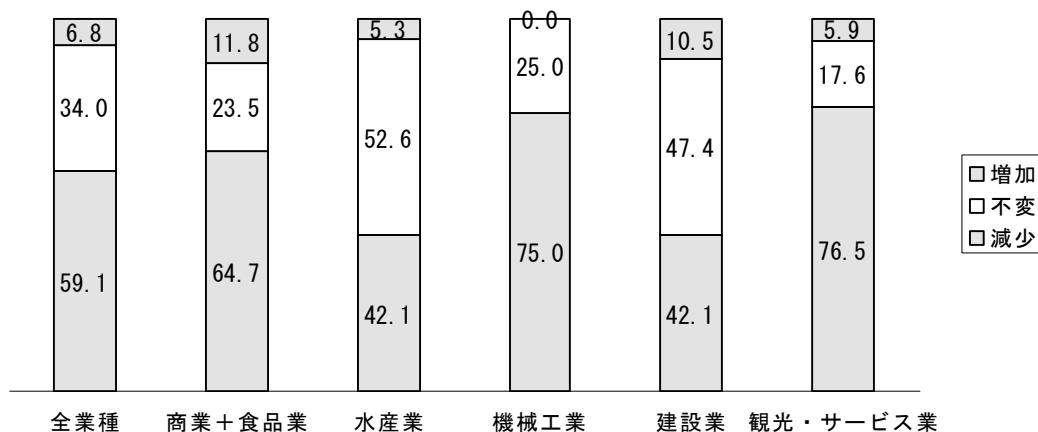


全業種平均 DI 値△48.9 [今期の業況（前年同期比△47.7）より 1.2 ポイント悪化の見通し]

## (2) 来期の売上高・生産高

【今期比】（平成 20 年 7 月～9 月期の水準と比較した来期の売上高・生産高見通し）

次期の売上高・生産高見通し（今期比）

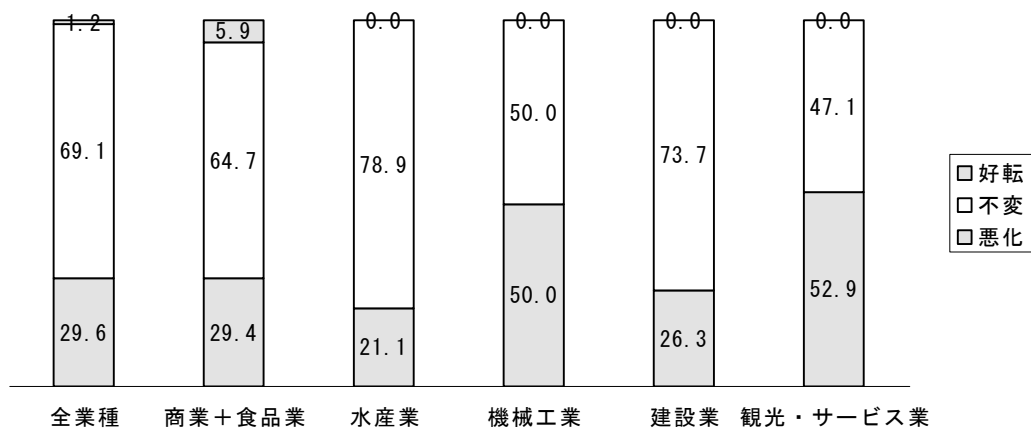


全業種平均 DI 値  $\Delta 52.3$  [今期の売上高・生産高（前年同期比 $\Delta 43.1$ ）より 9.2 ポイント悪化の見通し]

## (3) 来期の資金繰り見通し

【今期比】（平成 20 年 7 月～9 月期の水準と比較した来期の資金繰り見通し）

次期の資金繰り見通し（今期比）



全業種平均 DI 値  $\Delta 28.4$  [今期の資金繰り（前年同期比 $\Delta 26.4$ ）より 2.0 ポイント悪化の見通し]

### Ⅲ. 各 指 標

		全 体	商 業 食 品 業	水 産 業	機 械 工 業	建 設 業	観 光 サ ー ビ ス ・ 諸 業
業況判断 D・I	今期実績	△47.7	△58.8	△21.1	△56.3	△26.3	△82.4
	来期見通し	△48.9	△64.7	△15.8	△68.8	△31.6	△70.6
売上 D・I	今期実績	△43.1	△41.2	△10.5	△56.3	△36.8	△76.5
	来期見通し	△52.3	△52.9	△36.8	△75.0	△31.6	△70.6
在庫 D・I	今期実績	+2.9	△11.8	+16.7	—	—	—
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
採算 D・I	今期実績	△46.6	△47.1	△15.8	△50.0	△42.1	△82.4
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
資金繰り D・I	今期実績	△26.4	△23.5	+5.3	△31.3	△31.6	△56.3
	来期見通し	△28.4	△23.5	△21.1	△50.0	△26.3	△52.9
金融機関 貸出姿勢 D・I	今期実績	△4.8	0.0	0.0	△13.3	△5.6	△7.7
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
借入金 金利水準 D・I	今期実績	+11.4	+6.7	+36.8	0.0	+11.1	△7.7
	来期見通し	—	—	—	—	—	—

※借入金金利水準 D・I 値のプラス値については、借入金利が上昇したと感じた回答が多い時にプラス値で表示されます。